

科目名：児童文化Ⅱ		講義・ 演習	担当教員名： 大迫 京子
			実務経験： 有
2年次	後期	2単位	選択必修 / 必修
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本講義は、文化の中に育つ子どもについて、アリエスとロゴフの著書を用いながら文化的営みについて知識を深める。</p> <p>① 子供の誕生について－子どもの誕生を知る。</p> <p>② 文化と子どもの歴史－文化的な背景から知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現在の子どもを取り巻く環境について考えることから始まる。子どもの世界を見つめる機会をつくり、子どもにとっての遊びの意義や、心身の発達について理解するとともに、多様な児童文化の特徴や活用を学び、児童文化の充実を図る力と態度を養う。16世紀の文化からの変容を学び、養う。衣服や玩具、絵画の視点から子どもとは、について知識をつけ子どもと触れ合ううえで必要な文化的知能を養う。</p>			
授業計画			
1	ガイダンス－「文化財とはなにか」についてコンセンソのある学習－		
2	子供の誕生－子供期の発見－		
3	子供の服装－16世紀からの変容－		
4	遊びの歴史－絵画を用いた子供の遊び－		
5	学校での生活－学校のあり方の変化－		
6	中世における幼い生徒と大人の学生－16世紀からの変化－		
7	学校生活における子供－学級の起源－		
8	家族のあり方－世界における家族・コミュニティの育て方－		
9	子供の年齢－生徒とは、何歳なのか－		
10	文化活動への参加－変容と発達－		
11	社会文化活動への変容－歴史的理論－		
12	ダイナミックな文化コミュニティ－乳児や幼児に準備される学び－		
13	文化的なコミュニティ－世代を超えたコミュニティー－		
14	コミュニティにおける個人の役割－役割の発達移行		
15	相互依存性と自立性－自立と自律－		
<p>テキスト『〈子供〉の誕生－アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』フィリップ・アリエス 著</p> <p>『文化的営みとしての発達－個人、世代、コミュニティ』バーバラ・ロゴフ 著</p>			
<p>参考書等</p> <p>各授業ごとに論文を使用する。</p>			
<p>評価の方法</p> <p>(1) 授業態度：15% (2) レポートや課題：15% (3) 試験：70%</p>			